

滋賀県平和祈念館 第35回企画展示「戦場となった南洋の島々」展示資料一覧表

説明パネル	体験談	モノ資料	モノ資料提供者名
第1章 太平洋戦争開戦までの南洋群島			
太平洋の島々	母は16歳で単身、パラオに渡りました(高橋正則さん)	「トラック島便り」『尋常小学国語読本』巻九(1921年・大正10年発行)	個人
太平洋戦争開戦までの南洋群島	徴兵検査のために帰国する旅費は国持ちなんや(西邑紘さん)	『冒険ダン吉』(全4巻)(1976年・昭和51年の復刻版)	個人
		平和記念東京博覧会の絵ハガキ(2枚)	田村芳江さん
		『実業 新撰地理 外国篇 修正版』(1940年・昭和15年発行)	個人
		大東亜共栄圏地図(1941年・昭和16年発行)	個人
第2章 南方への進軍と転進			
太平洋戦争開戦と南方への進軍	ラバウルは難攻不落で、敵も寄りつけなだね(黒川増吉さん)	大東亜戦争(太平洋戦争)開戦詔書の掛軸	木村高広さん
	優秀なものだけがソロモン諸島へ行くねん(南田覚さん)	陸軍の軍服(上・下)、戦闘帽、肩掛けカバン、簡易テント、上陸作戦に使用した浮き袋、ラバウル小唄の歌詞	中西一雄さん
	私は1機も落とすことはない。そんな簡単に落とせるもんやない(南田覚さん)	ヤシの実で自作したタバコ入れ、軍刀のさや入れ、戦地から送ったハガキ、事実証明書のコピー、ニューブリテン島全図・ラバウル近傍図	黒川増吉さん
	水泳もしたことないもんが、船の上から海へよう飛び込ましませんやん(木村ますさん)	「飛行機発達図」(高橋亮一さんが1936年・昭和11年に書いたもの)	高橋正さん
	赤十字マークのある病院船が、白屋堂々とやられるのやな。ああ、これが戦争やと思ったね(木村了三さん)	飛行服	個人
		放送ニュース聴取用地図	滋賀県
ガダルカナル島での激戦と転進	水平線の向こうにある見えない船を撃つんです(Yさん)	昭和17年のダイアリー、海軍の履歴表、海軍軍帽、懐中時計(裏面に「賞 海軍大臣」の文字あり)、ゴーグル(ケース付き)	川副宇八さん
	マッカーサーが指揮した大部隊が上陸してきたんですわ(黒川増吉さん)	海軍軍帽、ベルト、被服物品交付表、身体歴、あっせん状	北林利男さん
	ボカーンと魚雷で機関部をやられたんや(北林利男さん)	海軍の軍服(上・下)、軍隊手帳、死亡通報、襟カラー(2点)、サスペンダー、写真	個人
	食うもんが満腹に食べられへんちゆうことほど、人間の心を恐ろしするものはおません(伊藤嘉兵衛さん)	出征幟(2本)、勝見益治郎さんからのハガキ(2通)、勝見益治郎さんの戦病死の様子を伝える手紙	勝見一恵さん
	もう戦闘能力はありません。ただ、隠れまわっていました(Mさん)		
第3章 戦場となった南洋群島			
アメリカ軍に占領された南洋群島			
玉砕	近くの島から玉砕の通信が入ってきました(佐藤保さん)	絵ハガキ(アッツ島玉砕)	田村芳江さん
	栄養失調で死ぬ人の方が多かったです(佐藤保さん)	『戦陣訓読本』(1941年・昭和16年発行)	川嶋清道さん
	トラック島大空襲で、浮いとる船はみな沈められた(Kさん)	軍隊手帳(戦陣訓が書かれたページ)	松崎香苗さん
	トラック島が木っ端みじんになりました(Yさん)		
	父は「サイパンは玉砕でけへんとこや」と言って出発していきました(駒井文子さん)	駒井宇之助さんから娘の文子さんへの手紙(2通)、駒井宇之助さんの葬儀での滋賀県知事の弔辞・児童総代の弔辞、駒井宇之助さんの写真	駒井まきさん
	もうお父さんは覚悟してはったんやろねえ(駒井まきさん)		
	「サイパンは、敵も来よらんし大丈夫なところや」と言っていました(Kさん)	疎開先で描いた絵日記	坂本正邦さん
	実際もう死んだ日というのは、分かんんです。遺骨ももちろん無かったし(内藤貞七さん)		
	ジャングルで陸軍の死に様をよさん見てきたがな(Hさん)		
戦場になったパラオ	夫は、ろくに手当てがしてもらえない中、戦病死しました(土田千代さん)	パラオで戦病死された土田正忍さんの写真(2点)、財布、財布の中にあつた写真(5点)、神社の御守り(4点)、御守り袋	土田廣志さん
	父は召集され、子どもたちを連れて母はパラオからの引き揚げ船に乗りました(高橋正則さん)		
	父はペリリュー島で玉砕していました(高橋正則さん)		
	船団でパラオまで陸軍兵を送っていったが、しまいには私たちの駆潜艇しか残らなんだ(角田與惣治さん)	海軍の毛布	角田與惣治さん
	すべてのもん食べ尽くしてるにやで。何もかも。よう生きられたな、ちゆうなもんや(角田與惣治さん)		
第4章 硫黄島玉砕 そして終戦へ			
硫黄島	日本兵は硫黄がいっぱい出るとこを掘って、壕の中で生活していたのよ(松崎香苗さん)	硫黄島への移動前日に書かれたハガキ、松崎壽吉さんの手帳(2冊)、貴口品袋、財布、鏡、御守り(2点)、硫黄島で戦病死された松崎壽吉さんの千人針	松崎香苗さん
	玉砕の電報を傍受したときは悲壮なもんでした。私ら泣きました(伊藤重一さん)		
	遺骨箱の中は空っぽでした(Oさん)		
本土空襲、原爆投下、そして終戦へ	幹部の中におつたので、もうすでに日本が負けることは知っていました(Nさん)	海軍の履歴表	個人
	敵の船が「早くこっちに逃げて来なさい」と言うんです(佐藤保さん)	伝単(敵の飛行機が撒いたチラシ)(6点)	滋賀県
	飛行機が撒いたビラで、大都会が焼け野原になった写真を見て、日本は負けたんやなと思った(黒川増吉さん)		
	家に帰るまで、音信不通。家族は戦死したと思ってたそうや(伊藤嘉兵衛さん)	雑のう、水筒、編み上げ靴	伊藤嘉兵衛さん
	日本に帰るとき、戦犯かどうかの首実検がありました(Mさん)		
	終戦の時に掌返して、「私らひどいことされた」言うてな(黒川増吉さん)		
	帰国する船の中でも、毎日5人、6人と死んでいきました(KSさん)		
	「お帰らなさい」と言われて、みんな声上げて泣きましたね(佐藤保さん)		
	あんまり悲しい、可哀想な死に方やったんで、お祖母さんに言えなんだ(安藤良枝さん)	父に届かなかった写真(安藤さん母娘)	安藤良枝さん
	伝えたいのは、戦争の恐ろしさを知ってるかということや(Hさん)		
南洋の島々の現在	夫への手紙をサイパンの海に流しました(Oさん)		